

多自然川づくり取組事例

| | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|---------|
| タイトル：重要種の保全を目的とした水際植生の回復 | | |
| 水系/河川名：川内川水系井立田川 | 河川分類：中小河川 | |
| 河川の流域面積：24.1 | 整備計画流量：280m ³ /s | セグメント：2 |
| 事業：災害復旧 | 事業開始年度 令和4年度 | |
| 目標設定：定性的 | 段階：D(実施・施工時) | |
| 課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、水際域の保全・再生・創出 | | |
| 工法(主な)：護岸整備 | | |
| 配慮事項(主な)：その他 | | |

背景・課題、目標設定

<背景>

一級河川井立田川では、令和2年度及び3年度における梅雨前線豪雨の影響で、護岸の崩れ等が複数箇所発生した。

そのうち、本事例の施工箇所については環境省レッドデータブックにおける準絶滅危惧に指定されているゲンバイトンボの生息地であることが判明した。

施工前に把握できていなかった反省点はあるが、護岸の復旧に併せ水際植生の早期再生を目標として施工を行った。

<課題>

重要種生息環境の復元

<目標>

護岸復旧に併せた
水際植生の早期再生



理想の生息環境(施工箇所より直下流)



重要種(ゲンバイトンボ)

取組内容・対策例(1/2)

(1)



(2)



(1) 工事に必要となる電力については、生息環境へ配慮し、発電機を使用せず、直接電柱から引き込みを行った。

(3)



(4)



(2) 流れが緩やかで水質良好な河川に生息するため、水替時に発生する濁水については、排水ポンプのホースを延長し、生息区域の下流側へ放出した。

(3) 護岸側面に寄土を行い、植生の早期形成を図った。

(4) 現地発生材の玉石で置石を行い、護岸側面の寄土が流出しないよう対策した。

取組内容・対策例(2/2)

(5)



(5) 河川工事に伴うにごりを最小限に防止するため施工箇所の下流にサンドマットを2重に設置した。

(6) 鹿児島昆虫同好会の会員及び愛好家の方々と共に、近隣の水際部と同様の植生に回復させるため、現地周辺で採取した植物を水際部へ移植した。

(6)-1 対策箇所



(6)-2 未対策箇所



寄土・置石の対策箇所と未対策箇所にて経過観察中
※移植はどちらも実施

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

着工前



完成



完成後9ヶ月経過



経過観察中



<アピールポイント>

目標である植生の早期回復について、未対策箇所については荒涼とし、対策箇所は明らかに植生が繁茂していることが確認できる。寄土、置石の効果が現れていることが確認出来た。

植生状況の経過観察を続けると共に、ゲンバイトンボの生態数の状況など関係者へ確認していく。

備考